

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

令和2年度病虫害発生予報第2号

令和2年4月28日  
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	<b>やや多</b>	モモ	ナシヒメシクイ カメムシ類	<b>やや早</b> <b>やや早</b>	並 <b>やや多</b>
	ヒメトビウンカ	—	少	ブドウ	灰色かび病 べと病	並 並	並 並
	縞葉枯病	—	少				
	ツマグロヨコバイ	—	少				
萎縮病	—	並	イチゴ	うどんこ病	—	<b>やや多</b>	
麦類	アブラムシ類	—	少	タマネギ	べと病	—	並
	ヤノハモグリバエ	—	並				
ジャガイモ	疫病	並	並	ナス等	ミナミキイロアザミ ウマ	—	やや少
モモ	灰星病	—	並	アブラナ科 野菜	アブラムシ類 コナガ	並 並	少 やや少
	黒星病	<b>やや早</b>	並				
	せん孔細菌病	—	多				
褐さび病	<b>やや早</b>	並	やや少				
モモハモグリガ	—	—	並				
ウメシロカイガラムシ	並	並	並				

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 苗立枯れ (もみ枯細菌病による苗腐敗)

予報内容

発 生 量                    **やや多**

予報の根拠

ア. 昨年のもみ枯細菌病の発生は平年よりやや多であったことから、種  
籾の伝染源量は平年よりやや多いと考えられる。

イ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か高  
く、降水量はほぼ平年並とされており、気温が高い場合、発病を助長  
する条件となる。

#### (2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発 生 量	ヒメトビウンカ (第1世代幼虫)	少
	縞葉枯病	少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は0頭  
で平年(58.0頭)より少なかった。

イ. 県予察圃場(休閑田)における縞葉枯病保毒虫率は0%であり、平  
年(7.0%)よりやや低かった。

ウ. 昨年の縞葉枯病の発生は平年並であった。

#### (3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発 生 量	ツマグロヨコバイ (第1世代幼虫)	少
	萎縮病	並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は0頭  
で平年(19.5頭)より少なかった。

イ. 萎縮病は近年ほとんど発生が認められない。

#### (4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期	並	発 生 量	並
------	---	-------	---

予報の根拠

ア. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か高  
く、越冬成虫の本田への飛込み時期は平年並と考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

### (麦 類)

#### (1) アブラムシ類

予報内容

発 生 量                    少

予報の根拠

ア. 4月23日の巡回調査によると、発生圃場率は26.1%で平年(63.5  
%)より低く、発生程度は軽微であった。

#### (2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発 生 量                    並

予報の根拠

ア. 4月23日の巡回調査によると、発生圃場率は34.8%で平年(12.2  
%)よりやや高いが、発生程度は軽微であった。

防除上の参考事項

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作としたり、コムギに転換する。

### (ジャガイモ)

#### (1) 疫病

予報内容

発生時期                      並                                      発生量                      並

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育は平年並かやや遅れている。

イ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

## 2. 果 樹

### (モモ)

#### (1) 灰星病

予報内容

発生量                      並

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査では、花腐れの発生圃場率は17.9%で平年(21.4%)並であった。

イ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

#### (2) 黒星病

予報内容

発生時期                      **やや早**                                      発生量                      並

予報の根拠

ア. モモの生育はやや早めに推移している。

イ. 4月21日の巡回調査(越冬病斑調査)によると、発生量は平年並であった。

ウ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

#### (3) せん孔細菌病

予報内容

発生量                      **多**

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査(春型枝病斑調査)によると、発生圃場率は35.7%で平年(10.0%)より高かった。

イ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 令和元年度植物防疫情報第9号(3月10日発表)、令和2年度病害虫発生予察注意報第1号(4月22日発表)参照。

#### (4) 褐さび病

予報内容

発生時期                      **やや早**                                      発生量                      並

予報の根拠

ア. モモの生育はやや早めに推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であり、伝染源の越冬量は平年並と考えられる。

#### (5) モモハモグリガ(第1世代成虫)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査(南部)では、発生圃場率は0%で平年(5.7%)より低かった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～4半旬までの誘殺数は0頭で、平年(6.0頭)より少なかった。

ウ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 4月20日までの赤磐市(農業研究所)の気温を用いた予測式によると、幼虫ふ化開始日は5月4日で平年(5月5日)並、幼虫ふ化最盛日(防除適期)は5月7日で平年(5月7日)並と予測される。

イ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か高く、発生をやや助長する条件である。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月4日であり、平年(4月9日)よりやや早かった。

イ. 4月1～4半旬の誘殺数は27頭で平年(22.5頭)並であった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、チャバネアオカメムシが863.1頭(平年385.2頭)で平年より多く、クサギカメムシが42.4頭(平年40.1頭)で平年並と予測される。

イ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育は平年並で推移している。

イ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育は平年並で推移している。

イ. 4月23日の季節予報(1か月予報)によると、降水量はほぼ平年

並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

#### 防除上の参考事項

- ア. ブドウべと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤（アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤）に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤と組み合わせて使用する。
- イ. ベと病菌は被害葉で越冬し、翌年5月以降、降雨時に葉裏の気孔から侵入して5月下旬頃から葉に発病することから、前年の被害葉は圃場外に持ち出して処分し、伝染源の除去に努める。

### 3. 野菜

（キュウリ、ナス、トマト、イチゴ）

#### （1）灰色かび病

予報内容

発生量                    並

予報の根拠

- ア. 4月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は、トマトでは33.3%と平年（56.0%）よりやや低く、イチゴでは36.4%と平年（32.1%）並であった。また、キュウリとナスでは発生を認めず、平年（キュウリ0%、ナス3.3%：10年間で1年のみ発生）並であった。
- イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

（イチゴ）

#### （1）うどんこ病

予報内容

発生量                    **やや多**

予報の根拠

- ア. 4月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は18.2%で平年（13.3%）よりやや高かった。
- イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

（タマネギ）

#### （1）べと病

予報内容

発生量                    並

予報の根拠

- ア. 4月20日の巡回調査によると、発生圃場率は36.4%（平年40.8%）、発病程度は20.0（平年20.2）と平年並であった。
- イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

#### 防除上の参考事項

- ア. 令和元年度植物防疫情報第11号（令和2年3月19日発表）参照。  
なお、一部の圃場では依然発生が認められるので、予防的な防除に努める。

（ナス、キュウリ）

#### （1）ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月20、21日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は  
平年よりやや少なかった。

イ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高  
く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発生を助長する条件では  
ない。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生時期 並 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は48頭で、  
平年（227.3頭）より少なかった。

イ. 4月21日の巡回調査によると、ダイコンでは平年同様発生を認め  
ず、発生圃場率は平年（8.5%）並であった。

ウ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高  
く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発生を助長する条件では  
ない。

(2) コナガ

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は、  
20頭で、平年（27.4頭）よりやや少なかった。

イ. 4月21日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年  
（発生圃場率：2.3%）並であった。

ウ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高  
く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発生を助長する条件では  
ない。

#### 4. 花き類

(キク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生時期 並 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は48頭で、  
平年（227.3頭）より少なかった。

イ. 4月20日の巡回調査によると、発生を認めず、平年（発生圃場率  
：46.5%）より少なかった。

ウ. 4月23日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高  
く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発生を助長する条件では  
ない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。  
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

